

令和7年度第1回函館市政策アドバイザー意見交換会 会議録【閉会】

1 日 時 令和7年(2025年)11月14日(金) 15:30~17:30

2 場 所 花びしホテル2階「あかしや」

(阿部企画部長)

それでは、皆様お揃いになりましたので最後に市長から御礼を申し上げます。

(大泉市長)

大変、皆さんの貴重なお時間をいただきまして、また有意義なご意見を頂戴いたしました。誠にありがとうございます。

感じたところのまず一番は、函館ネタが多いからなのかもしれませんが、非常にこう活発な議論の中で時間が短かったと思っております。これはちょっと失礼をしたと謝っておきたいと思えます。それだけ今回はメンバーも多かったというのがあります。市の職員だけではなくて、色んな意見を言っていただけというのは、本当に嬉しいことだと思っております。

また、時間が短かったということから敷衍(ふえん)して申し上げますと、今回、グループに分けて多くの部局長がアドバイザーの皆さんと接点を持つことができました。それで短かったと私が思ったと思うだけ、多分、部局長も思ったと思えます。ですから、何かの形で、私もそうですが、市役所の幹部職員・職員たちが、アドバイザーの皆さんと連携を取れるような新しい仕組み、そういったこともぜひ考えてまいりたいと思えます。

それから、最後の産業と雇用のところでは、発言する時間がなかったものですから1つ触れさせていただきたいと思えます。伊藤委員からも、もっと尖った企業誘致もいいんじゃないかというお話もありました。大変参考になります。やはり企業誘致の力というのは、本当に大きいものがあると思えますし、それからスタートアップも地域の人々のスタートアップということ、これはなかなか限りがあると思えますので、より広いエリアでものを見ながらスタートアップの促進もやっていきたいと思えますし、大きなイベントということに関して大変魅力的なご意見だったと思っております。

1つの自治体でできることということに非常に限りがある中で、こうした我々のようなサイズの自治体が成長していくとか、あるいは人口減少をより止めていくというようなことをするためには、大きなうねりと合致しなければいけないものだと思います。ですから、国家の成長戦略と我々のような地方の挑戦、これがベクトルを合わせるような形になって、初めて大きな力が生まれると思っております。ですから、これは答えではありませんが、国家の成長戦略と函館で合う部分とすれば、例えばGXであるとか、あるいは造船、あるいはコンテンツ産業なんかも最近非常に注目されています。また、インバウンドも6000万人に向けて、やり抜くんだというようなことを官公庁もおっしゃっている。この他にもそういう大きなうねりと

我々の挑戦をうまく合わせるような，そういう最適解を求めてまいりたいと思いますので，これからもぜひ幅広く，また有意義なご意見を頂戴できればと思います。本日は誠にありがとうございました。

(阿部企画部長)

ありがとうございました。それではこれをもちまして令和7年度第1回函館市政策アドバイザー意見交換会を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。